

マルチメディアDAISY図書の活用事例

東日本少年矯正医療・教育センター
松永 哲司

はじめに

当センターは、精神障害などを抱える非行少年の矯正教育を行う少年院です。在院者の多くは、知的障害や発達障害、統合失調症などの精神障害を抱えており、矯正教育を行ううえで特別な配慮が求められています。

また、非行少年全般に言えることですが、本人の能力とは別に、家庭環境や対人関係の問題により、早期に学校教育からドロップアウトしている者が多く、活字や本に触れずに育ってきた子どもたちが大半です。少年院入院後に初めて本に触れ、その魅力に気づく子どもたちを数多く目にしてきました。

少年院という閉鎖的で特殊な環境においては、読書は学びの教材であると同時に、娯楽の一つでもあることから、「本を読める」ことが精神衛生を健全に保つうえで非常に大事なスキルにもなります。少年院にも図書室があり、教育活動の一環として定期的にさまざまな図書に触れる機会が設けられていますが、当センターの在院者の年齢は、

おおむね13～22歳、IQは30～130台と幅広く、その関心も多岐にわたることから、ニーズに沿った図書の提供が十分にできていないのが現状です。

特に、軽度から中等度の知的障害を抱える在院者の中には、幼児向けの絵本であっても一人では読めず、他の在院者が楽しみにしているVTRや映画等の視聴覚教材も、「場面展開が速く、登場人物が多くてストーリーがわからない」と話す者が少なからずいます。そうした者に対しても、読書を楽しみ、本を通して心情安定と情操教育を図る機会を設けたいと考えていたところ、マルチメディアDAISY図書の存在を知り、導入するに至りました。



活用事例 1（個別での利用）

・対象者：

19歳男性、中等度知的障害、性非行

・目的：

Aさんは読み書きがほとんどできず、本を読めない。映画にも興味を示さないため、やることが明確な日課時間よりも余暇時間を持て余し、その時間帯に職員の気を引こうとして不適切な行動を起こしやすかった。加えて、理解できる情報源が限られているため、気になるとがあると、気持ちや関心が切り替えられずに同じことにこだわっていた。こうした問題を解決する一助として、Aさんが理解できる速度と情報量を調整しながら読書に触れさせることで、心情の安定や適切な注意の転換を図った。

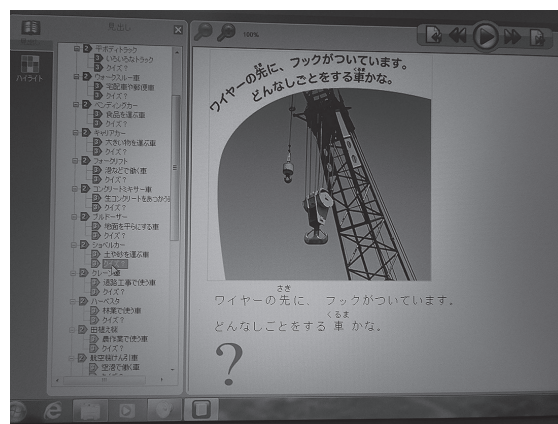


・実施方法：

週1回30分、刺激の少ない面接室で、職員とDAISYを視聴する。本の表紙絵がつづられたファイルを見せながら、何の本を読むかを決める。本人からの申し出があれば、違う本に交換する。

AさんがマルチメディアDAISY図書

に興味をもち、安定的に実施できるようになった段階を見計らい、実施頻度を変更した。週1回という時間感覚を能力的につかむことがむずかしく、何度も次回の実施日を気にして同じ質問を繰り返すことから、問題行動を起こさずに適切な行動が取れたときのご褒美として、マルチメディアDAISY図書の視聴を行う形に切り替えた。

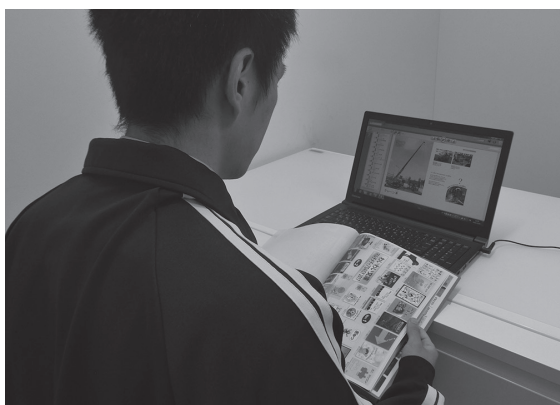


・実施結果：

初回は、マルチメディアDAISY図書の実施方法と、30分間という時間枠について説明し、左記の図書ファイルを見ながら何の本を見るか、楽しそうに選んでいた。ふだんは本棚を見てもタイトルすら見ようとしないAさんがうれしそうに選んでいる様子は印象的だった。いくつか選んだ本を順に見ていたが、5分ほどで画面から関心が逸れてしまうので、『はたらく車』を見た際は、車の紹介文の後ろにあるクイズの画面で一時停止し、一緒にクイズに取り組み、ゲーム性をもたせながら視聴すると、楽しみながら取り組んでいた。

回を追うごとに好きな本は厳選されていき、電車の本を好んで見るようになった。特に『新・東京のでんしゃずかん』と『はしれ！ぐるぐるやまのてせん』は、何度も何度も見ていた。また、駅や電車の写真を見ながら、職員に「これ、お父さんと一緒に乗ったことがある。」「これ、家の近く、通ってる。」「ここ（少年院）から出たら、お母さん一緒に乗ってくれるかなあ。」などと話しかけてくるが多かった。ふだん、こちらが質問してもこうした回答が返ってくることはまずないため、過去の回想をする媒介としても有用だった。Aさんも、次第にマルチメディアDAISY図書の視聴を楽しみにするようになり、本人なりに不適切な行動を減らそうとする様子も見受けられた。

その他、この取り組みを始めるまでは、時折見かける女性看護師のことばかりを考えていたが、マルチメディアDAISY図書の視聴を定期的に行うようになると、関心が「看護師」から「電車」に上書きされ、不適切な言動が減ったことも特徴的だった。



写真はイメージです

活用事例2（グループでの利用）

・対象者：

15～19歳の男性（4名）

軽度知的障害、自閉症スペクトラム障害等の診断、窃盗・傷害等の非行

・実施方法及び目的：

当センターでは、治療的教育活動として、ビジョントレーニングやコーディネーショントレーニング、聞き取り能力トレーニングなどを用いた授業を4名を1グループとして、おおむね月3～4回実施している。その中で、「聞き取り能力」向上を目的としたトレーニングを行う際、①数字の聞き取り、②3～4文字言葉の聞き取り、③話の聞き取りを3段階で行っている。「話の聞き取り」を行う際、5分程度、マルチメディアDAISY図書の物語を視聴させ、登場人物、話の筋書きなどを適切に理解できているかを確認している。その際、読み上げの速度を速くしたり遅くしたりし、課題の難易度を調整している。

・実施結果：

『10分で読める発明・発見をした人の伝記』の中にあるコロンブスを流し、登場人物の名前、どこに行ったか、何を発見したか、どういう困難があったかなどを確認した。物語を読み上げている間は、各自メモを取ることができ

るため、名前や地名を覚えている者は比較的多かったが、要約・抽出してメモをしなければいけない話の展開などについては、ほとんど全員が答えられなかった。

ふだんの聞き取り能力トレーニングを繰り返せば、数字や単語を単に覚えることは少しずつできるようになっていくが、それを意味のある文章として理解するには、5W1Hといった要点を押さえることが必要であるとの実感を体験的に理解できていた。



写真はイメージです

おわりに

マルチメディアDAISY図書の導入は全国の少年院で初めての試みであるため、実施方法や活用方法についてはまだ模索中です。この「わいわい文庫活用術」を通じてさまざまな施設での取組や工夫を知り、それぞれの子どもたちのニーズに合った活用方法を今後も考えていきたいと思っております。当センターでの取り組みも、何かの参考になれば幸いです。

なお、取り上げた事例については、個人情報保護の観点から、実施内容を損なわない範囲で改変を加えております。

